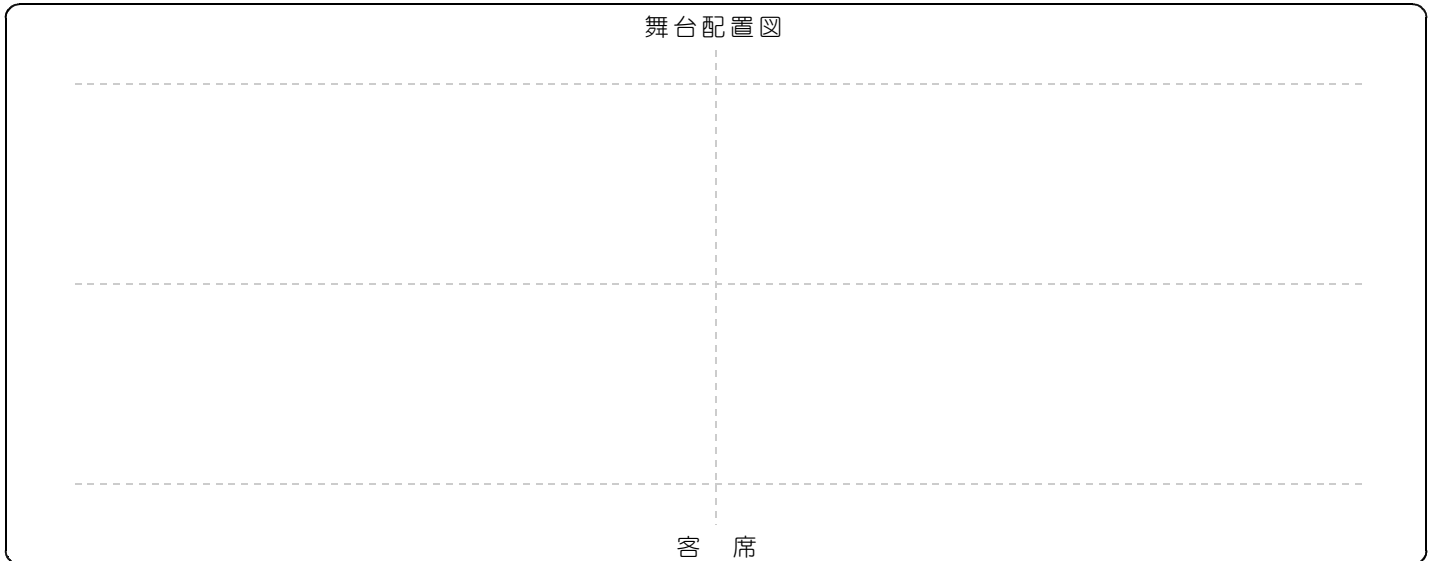


No.	正規調絃	<b>焰</b>	演奏者数	演奏時間
-----	------	----------	------	------



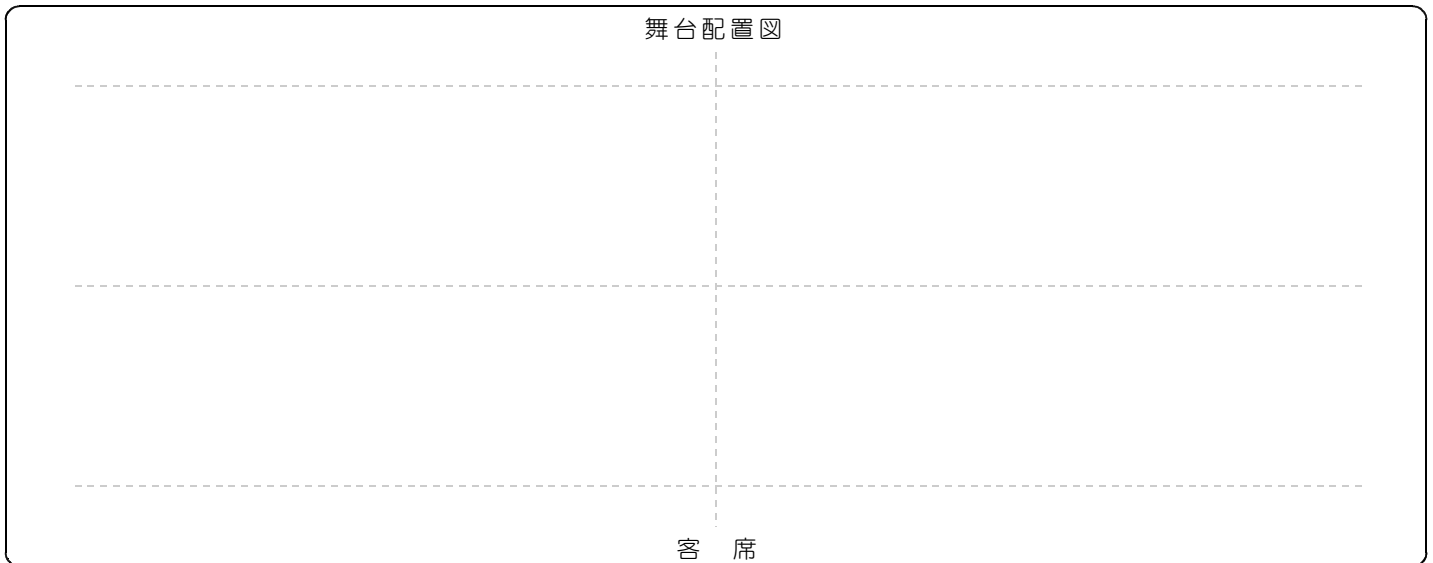
客 席

表示記号一覧	一 箏	= 17絃	+ 三絃	0 尺八	≠ 他楽器	* マイク	□ エター-	□ 毛氈	W 屏風
立奏	立奏台	大 台	小 台	椅子	大 台	小 台	譜面台	台	ハイター 枚
座奏	琴台	台	見台	台	山台	録音 有：無	録画 有：無	他	
始	緞帳：暗転	板付	毛氈 緋：紺	音響					
終	緞帳：暗転	板付	屏風 金：銀	照明					

調絃表	ピッチ A=44				編成：17絃			1箏		2箏		3箏		4箏		5箏	
Part	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	斗	為	巾	4	5	6	7
17絃	C	C#	D#	G	G#	A#	B	C	C#	F	F#	G	C	F	G	B	G
1 箏	C	E	F	F#	G	A#	C	E	F	F#	G	A#	C				
2 箏									A								
3 箏							G						A#				
4 箏													C	G			
5 箏													F#				

編成欄には面数を記入 開始調絃は太字 転調は上下の欄 ハーモニックスは右肩に○

No.	実音より半音高い調絃	焰	演奏者数	演奏時間
-----	------------	---	------	------



客 席

表示記号一覧	一 箏	= 17絃	+ 三絃	0 尺八	≠ 他楽器	* マイク	□ エター-	□ 毛氈	W 屏風
立 奏	立奏台	大 台	小 台	椅子	大 台	小 台	譜面台	台	ハイター 枚
座 奏	琴台	台	見台	台	山台	録音 有：無	録画 有：無	他	
始	緞帳：暗転	板付	毛氈 緋：紺	音響					
終	緞帳：暗転	板付	屏風 金：銀	照明					

調絃表	ピッチ A=44				編成：17絃				1箏		2箏		3箏		4箏		5箏		
Part	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	斗	為	巾	4	5	6	7		
17絃	C#	D	E	G#	A	B	C	C#	D	F#	G	G#	C#	F#	G#	C	G#		
1 箏	C#	F	F#	G	G#	B	C#	F	F#	G	G#	B	C#						
2 箏	C	C#	D	D#	E	F	F#	G	G#	D	F	B	C						
3 箏	G	B	C	C#	D	F	G	B	C	C#	D	F	G						
4 箏	F#	B	C	C#	D	D#	E	F	F#	G	A	C	F						
5 箏	C#	F	F#	G	G#	B	C#	F	F#	G	G#	B	C#						
	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	斗	為	巾						

## 焰（ほむら）HOMURA

作曲年 1979年 委嘱者 沢井一恵 構成 十七弦独奏 箏 I～V 時間 16分 出版楽譜 無し

解説 誕生以来、大合奏の片隅で低音の補充役を務めてきた十七弦も、ここ数年の内に室内楽的なアンサンブルへ、また独奏へと進出してきた。それに従って低音楽器としての音色をより充実させる為の楽器改良も進みつつある現在、少し前までの低い音がただ鳴っているというものから脱して、箏に準じた、否、或る意味からは箏以上の音楽的表現が十七弦に求められる時代が来ていると言えるのではないだろうか。勿論それは（音楽的表現をより深く追求するという点では）奏者のうえにも同じ事がいえ、作曲家にもそれを求め、聴衆の理解と応援のもとに十七弦という楽器の可能性をもっと掘り下げていけると確信している。余談ではあるが、学生時代、男性ということで、いつも大合奏の隅の十七弦を弾かされながら「卒業したら絶対に十七弦など弾かないぞ！」と十七弦嫌いを誓った私も、最近、時には十七弦もさわってみたいという、心境の変化というか、最近の十七弦の魅力にひかれるというかそんな想いが私の裡に湧いてきます。箏群の騒めきの中に十七弦の生命がどのように溶け込み、どのように燃え上がるかを私自身確かめたい気持ちからつけたタイトルです。1979年作曲。〔作曲者〕

収録媒体 LP 現代邦楽の世界 沢井一恵（SJL-224）